

山下循環器科内科ニュース第 187 号

2020 年 5 月 1 日発行（隔月発行）

ホームページ <http://yamashita.chobi.net/>

◎新型コロナウイルスについて

新型コロナウイルスが猛威を振るっています。皆さんもマスクや手洗いなどで十分に気をつけられていると思います。報道されていますように、コロナに効く薬の有力候補の一つは、アビガンという抗インフルエンザ薬です。現在、治験が進行中ですので、近いうちに承認、使用許可になると思います。検査キットも徐々に増えています。まだ、一般の医療機関で検査するまでには至っておりませんが、インフルエンザのように手軽に検査できるようになれば良いと思います。予防のワクチンは国産のものが開発中ですが、早ければ 7 月から治験に入り、9 月から使えるようになるとのことです。もう少しの辛抱かと思います。3密（密閉・密集・密接）防止に気をつけて、頑張りましょう。何か気になることがあれば、お気軽にお尋ねください。

◎帯状疱疹の治療と予防について

帯状疱疹とは、水ぼうそうのウイルスが、子供のころかかった水ぼうそう感染後、ウイルスが体内の神経節に残っていて、体力が弱った時などに神経に沿った皮膚に発疹として出る病気です。多くは痛みが先行し、痛いなあーと思っていると、そのうち帯状に赤い水膨れのような発疹が出て診断されます。

治療としては、できるだけ早期に抗ウイルス薬を 1 週間内服します。最近の商品名アメナリーフという薬が、1 日 1 回の内服ですみ、腎臓機能が悪くても飲めますので頻用されます。広範囲の発疹の時や、体調がひどく悪い時は入院して点滴治療することもあります。

痛みには初めはアセトアミノフェンなどの鎮痛剤が用いられます。急性期や少し急性期を過ぎた後は、患部の神経ブロックの方がよく効くと思います。神経ブロックはやや難しい手技なので、麻酔科などの専門医が行います。

痛みは発疹が治った後も長く続くことがあり、これは帯状疱疹後神経痛と呼ばれ、時には耐え難い痛みとなることがあります。これは神経障害性疼痛と呼ばれる痛みであり、薬としては、商品名リリカや最近出たタリージェという薬が処方されます。

予防薬は水痘ワクチンです。50 歳以上の人に帯状疱疹が出やすいことから、平成 28 年に 50 歳以上の人の子予防ワクチンとして認められました。公費負担はなく全額自己負担ですが、効果はありますので、お勧めできると思います。

（理事長 山下賢治）

◎私が看護師を目指したきっかけ

新型コロナウイルスなど暗いニュースが多い中、今年も桜は満開に咲き、新緑も芽吹く心地良い季節となっています。桜が咲くと言えば、私事ですが今年の第109回看護師国家試験に合格し、正看護師として外来で勤務しています。以前より知ってくれている方も「最近新しい看護師が入った？」と思われる方も私がこの年齢で(年齢は非公開で...)なぜ看護師になったのか、ご興味があればご一読していただければ幸いです。

私が最初にこちらの病院で勤務し始めたのは15年ほど前になります。その頃は受付で勤務していました。一旦退職せざるを得ず、数年後にご縁があり、復職した際には受付と介護事務をしていました。幼少の頃から憧れであった看護師にはなれなかったものの、医療に携わる仕事ができ、日々を過ごしていました。退職したのは、乳癌を患った母の闘病生活を支えるためでした。最期まで一緒に過ごした中で、自分が直接何もしてあげられなかったもどかしさと悔しさ、後悔が今でも残っています。せめて残された父は自分で看たいと思いました。友人が看護学校に通っているとの話を聞いたのが、私の背中を押しました。もちろん、家族は反対し、理事長にお話した時にビックリした表情だったのを覚えています。それから准看学校2年、看護学校3年の計5年間、仕事と家庭と学校と実習と...とにかく目の前のことをこなして行くことで精一杯でした。看護学校に通い始めてすぐ、正直なところ、これほど辛いなら看護師になるなんて言わなきゃよかったと後悔しました。母を亡くした以上に辛く耐え難いことはないと自分に言い聞かせ、厳しい実習も乗り越えました。週数回の勤務で、顔なじみの患者さんが声をかけてくれるのが何よりも励みになりました。学生として過ごした間、辛いことだけではなく、良い事もたくさんありました。人生の糧となる経験が数多くあり、人間性が磨かれたのではないかと思います。

そして今年、晴れて国家試験に合格することができました。これは私だけの力ではありません。理事長をはじめとする職場の方々、家族、患者さん、学校の先生、苦楽を共にしたクラスメイト、支えてくださった周囲の方全員のおかげです。何の取り柄もないと思っていた私が、卒業する際には「大分市市長賞」に表彰され、自信にも繋がりました。

人とのつながりの大切さと感謝する心を持つという事を学んだ5年間でした。誰かのために役に立ち、良い連鎖ができるよう日々努力し、現状に満足せず、次のステップへと邁進していきたいと思います。今後とも遅咲きの新米看護師をどうぞよろしく願いいたします。最後まで読んで頂きましてありがとうございます。(外来看護師 伊東万由子)